

テアトロ

6
2021

追悼 さようなら、清水邦夫さん
坂手洋二/東 憲司/南谷朝子

第34回テアトロ新人戯曲賞募集

[特集] 月船さららと飯野 遠

結城雅秀/木村 隆/七字英輔

批評的エッセイ「子午線の祀り」考/石澤秀二

●連載 旅する演出家②⑨ 流山児 祥
共創する空間へ④⑦ 西堂行人

今月選んだベストスリー ③②② 江原吉博

◆戯曲◆

虚 数

三浦 剛

ミュージカル

新・若草物語

福田善之





4月の

関西

人とのつながり。困難と光と。

遊劇体「われわれは遠くから来た、そしてまた遠くへ行くのだ」

エイチエムピー・シアターカンパニー【ホモハラル】

匿名劇壇「賭けてもいいけど」

プロジェクトKUTOO10【かもめごっこ】

清流劇場「クレイヴインケル市の自由」

まち歩き演劇「忘れじの朝」

九鬼葉子

田中孝弥構成・演出。

市長（上田泰三）の専制政治の下、

市民達の不満が募る町。ウィーン革命

後のオーストリアから来たジャーナリ

ストのウルトラ（上海太郎）は、革命

運動へと市民を駆り立て、当局から退

去命令が下る。彼は変装して当地に残

る。一方、市助役のクラウス（高口真

吾）は娘（永津真奈）を修道女にしよ

うとするが、彼女には恋人がいた。

革命ムードに酔い、外国からの力に

頼る、日和見的な市民を風刺した劇。

家長制度への風刺も効く。娘の結婚に

反対するクラウスも、他人の娘には駆

け落ちの手助けをする。「自分の生き

方が正しいかは、神に尋ねるものでは

ない。尋ねているのは神。答えるのは

私達人間だ」と、もっともらしい説教

もする。芝居の主題とも思えた台詞だ

が、ペールで顔の隠された娘は、実は

彼の娘だったというオチが付く。

台詞の喜劇性が時代とお国柄の違い

で伝わりにくい、困難な戯曲に挑戦。

現代的にテキストレジーした苦勞が偲

清流劇場が、19世紀のオーストリア

の劇作家、ネストロイ作『クレイヴィ

ンケル市の自由』を上演（3月13日、

大阪市の一心寺シアター倶楽で所見、